

共産党北地区委員会が震災救援ボランティアを石巻に派遣 津波の惨状前に側溝ドロ出し、生活物資配布で奮闘！

住宅街で側溝に溜まったヘドロをかき出すのの山区議ら北区ボラ隊

●6名で5時間かけ、党のボランティアセンターに野菜と救援募金も届けて

区議 3 名が仙台の社会保険病院や釜石などを訪問調査したのに続き、6月11日から3日間、共産党北地区震災対策本部から、そねはじめ前都議をキャップに、のの山区議など男性チーム 6 名のボランティア隊を石巻市に派遣し、厳しい災害現場で救援活動に奮闘しました。

「重労働も惜しまず」の決意で現地入りしましたが、宮城県第 2 の石巻は、漁港や海岸の工場が津波で完全に破壊され、地獄さながらの風景でした。

●ドロだし隊に自治会長もお礼に・・

北区の部隊は 6 月 1 2 日、晴天の暑さの下、仮設住宅周辺で側溝の重いふたを開け、ヘドロの泥出し作業。

地域の自治会長さんが「ずっと市の清掃がなかった側溝をきれいにしてくれて本当に有り難い」とお礼に駆けつけました。向かいの住宅から「使ってください」と水道のホースが提供され、作業後の水洗いが早めに済みました。震災から 3 ヶ月の町ではあちこちで葬儀があり、喪服の方がたが目につきました。



●ハンドマイクで案内すると家々から続々と

翌 13 日は、北区から届けた支援物資と野菜をトラックに積み、津波被害で孤立した「塩富町」に出かけ無料配布に取組みました。ハンドマイクで呼びかけると、家々から続々と女性が出てきて、30 分ほどの間に持ってきた品物が次つぎとさばけていきました。

粉石けん、紙おむつ、ティッシュ、ハエ取り紙がなくなり、割り箸、歯ブラシ、スプーンなども

ほぼ無くなりました。野菜も最後のニンジン、ジャガイモまで全て持って行ってくれました。

店が再開した中心街まで出かけたくても車が流され、バスもなく、お風呂も自由に入れないなど厳しい暮らしの実情も垣間見ながら、現地を後にしました。

●ひきつづき被災地救援募金と ボランティアにご協力を

北区の共産党では、7 月以降も毎月、石巻市を中心にボランティアを派遣します。

保存食や持ちのよい野菜、防虫剤やカセットコンロボンベ、割り箸、粉石けん、バスタオルなどが品うすのため大変喜ばれます。

何よりも現金での募金支援が大切です。ご協力をお願いします。



石巻漁港で腐敗した魚の山に群がるかもめ